

「認知症関連疾患における異常タンパク質の検討」に関する情報公開

東京都健康長寿医療センターでは、当センター高齢者ブレインバンクに登録された方を対象に下記の共同研究を実施します。病理解剖の際に医科学研究への協力にご承諾をいただいておりますが、改めて本研究へのご協力を承りますようお願いいたします。

なお、本研究への協力を望まれない場合、あるいは研究の詳細についてお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ担当者までご連絡ください。

研究の名称

認知症関連疾患における異常タンパク質の検討

研究責任者

東京都健康長寿医療センター 老年病理学研究チーム(神経病理) / 高齢者ブレインバンク 齊藤祐子

研究の対象

2001年7月から2021年3月までに病理解剖され東京都健康長寿医療センター高齢者ブレインバンクに登録された方の内、病理診断により神経核内封入体病(NIID)と診断された方

研究の期間

倫理委員会承認後から2022年3月まで

研究の目的

神経変性疾患の多くは異常タンパク質の蓄積を伴っており、ハンチントン病のように核内に封入体を伴う疾患もあります。神経核内封入体病(NIID)と呼ばれる一群の疾患では、日本ではNOTCH2NLC遺伝子に原因と思われるGGCリピートの伸長が同定されていますが、欧米ではこのリピート伸長が見つかりません。われわれはフィンランドのNIID症例を用いて核内封入体のタンパク化学的検討を行い、最近その構成成分protein-Xを同定しました(未発表)。protein-Xはこれまでの検討では核内封入体の主要タンパク質であると考えられます。本研究では、日本のNIID(NOTCH2NLC)の核内封入体にも構成成分としてprotein-Xが含まれているかどうかを検証いたします。

研究の方法

NIID(NOTCH2NLC)の皮質で核内封入体の多い部分を用いて、Western blot法などのタンパク化学的手法でprotein-Xが存在するかどうかを検討します。

研究に使用する試料・情報

神経核内封入体病 NIID(NOTCH2NLC) 2 例の凍結脳組織

付随する情報（診断名、年齢、性別、病理学的解析結果、死後時間など）

研究組織

東京都健康長寿医療センター 神経病理 / 高齢者ブレインバンク

齊藤祐子

村山繁雄

同志社大学脳科学研究科

貫名信行（研究代表者）

お問い合わせへの対応

本研究に関するご質問や資料閲覧のご希望は、下記の問い合わせ先にご連絡下さい。

研究計画書や研究方法に関する資料については、ご遺族の希望に応じて、他の研究対象者や研究者に不利益が及ばない範囲内で、ご覧になることができます。また、研究への協力撤回を表明された場合は、速やかに研究での利用を停止いたします。研究に協力されない場合でも不利益な扱いを受けることはありません。しかしながら、すでに研究に使用されていた場合には、結果の取り消しなどの十分なお対応ができない場合がありますことをご理解ください。

【問い合わせ先】

〒173-0015 東京都板橋区栄町 35 番 2 号

東京都健康長寿医療センター

高齢者ブレインバンク / 神経病理 齊藤祐子

電話 03-3964-3241 内線 4419 (平日 9:00~17:00)